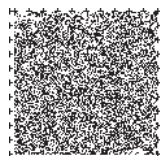


Ⅱ

オリンピック・パラリンピックの歴史と意義

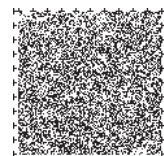
1. 誕生と歴史
2. 精神と価値
3. オリンピックシンボルとパラリンピックシンボル
4. オリンピック・ムーブメントとパラリンピック・ムーブメント
5. オリンピックと平和
6. 変わり続けるオリンピックとパラリンピック



Ⅱ. オリンピック・パラリンピックの歴史と意義

1. 誕生と歴史

2020年、いよいよ、東京2020大会が開催されます。みなさんも、これまでの大会で印象に残っている選手や競技、場面があるのではないのでしょうか。
オリンピック・パラリンピックは「スポーツの祭典」としてだけでなく、文化や教育などさまざまな活動があります。



古代オリンピック（紀元前）

オリンピック・パラリンピックは多くの人々の想いと努力によって受け継がれてきました。オリンピックの始まりは、今から約2800年も前の古代ギリシャにさかのぼります。この頃のオリンピックを「古代オリンピック」といいます。古代オリンピックは4年に一度、オリンピアという聖地（都市）で開催されていたため、これが「オリンピック」という名前の由来になっています。



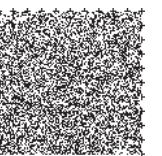
古代オリンピックが開催されたオリンピアの遺跡



古代オリンピックで行われたスタディオン走と呼ばれる短距離走



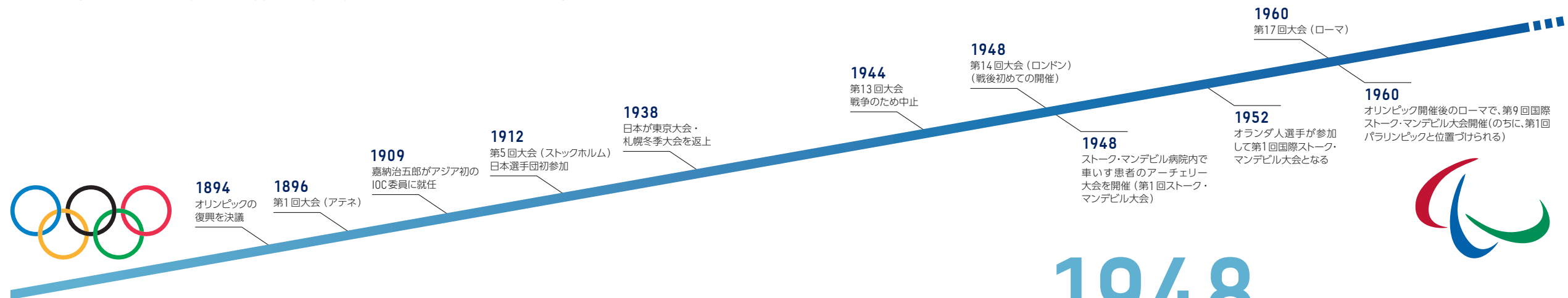
オリンピア遺跡、ヘラ神殿で行われる採火式



Ⅱ. オリンピック・パラリンピックの歴史と意義

近代オリンピック 1894

欧米列強各国が植民地獲得競争（帝国主義）に突き進んでいた19世紀末、フランスのクーベルタンは、「スポーツと芸術を通して調和のとれた人間を育て、世界平和に貢献する」ことを提唱し、古代に行われていたオリンピックを復興してオリンピックの理念（オリンピズム）の普及を目指しました。日本では嘉納治五郎を中心にオリンピズムの普及に努めました。



近代オリンピックの父 ピエール・ド・クーベルタン

- ・31歳の若さで、各国にオリンピック復興を提唱
- ・IOC会長を約30年務める
- ・オリンピックの精神を広めた
- ・教育者の枠にとどまらず、社会活動家として広く活躍



ピエール・ド・クーベルタン

日本オリンピックの父 嘉納治五郎（かのう じごろう）

- ・日本でオリンピック・ムーブメントを広めた教育者
- ・アジア初のIOC委員
- ・日本でのオリンピック開催に向け精力的に活動
- ・柔道の創始者「柔道の父」



嘉納治五郎

column

幻の東京オリンピック

嘉納の努力により、1936年のIOC総会で1940年東京大会開催が決まりました。しかし1938年に、嘉納が逝去し、また日中戦争の長期化により大会を返上。嘉納の悲願だった東京オリンピックは幻となりました。その後、多くの人々の想いと努力で1964年に東京オリンピックが実現しますが、そこに至るまでには実に26年もの歳月がかかったのです。



旧鉄道省が制作したポスター

パラリンピック 1948

近代オリンピック創始から約50年、イギリスでパラリンピックの原点となる大会が行われました。1944年から戦争で傷ついた兵士の治療にあたっていた医師であるグットマンが、リハビリテーションにスポーツを導入し、1948年、ロンドンオリンピック開会式と同じ日に、自らの病院で車いす患者によるストーク・マンデビル大会（アーチェリー大会）を開催。この大会がのちに、パラリンピックへと発展しました。現在は1989年に創設されたIPCが主催し、4年に一度開催しています。



ストーク・マンデビル大会

パラリンピックの父 ルードウィヒ・グットマン

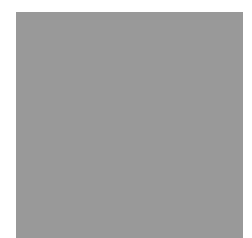
- ・英国ストーク・マンデビル病院の医師として傷痍軍人の治療にあたった
- ・患者が社会復帰するためにスポーツの重要性に気づき、患者のための競技大会を開催
- ・この大会が、のちにパラリンピックに発展し、さらにオリンピック開催年に、同都市で開催されるようになった
- ・「失われたものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」という理念を後世に遺した



ルードウィヒ・グットマン

日本パラリンピックの父 中村裕（なかむら ゆたか）

- ・医学博士。英国ストーク・マンデビル病院に留学して、グットマンの教えを受ける
- ・1964年の東京で国際身体障害者スポーツ大会の実現に向け、支援者や資金の調達などで尽力（この大会はのちに第2回パラリンピックに認定）
- ・1964～1980年まで5回のパラリンピックで選手団長を務めた
- ・「保護より機会を!」の理念の下、障がい者が働き生活する施設「太陽の家」を創設



中村裕

Ⅱ. オリンピック・パラリンピックの歴史と意義

1964年 第18回東京大会と第2回パラリンピック開催

アジアで初めてのオリンピックが実現。東海道新幹線、東京モノレール、首都高速道路などの交通網も整備され、戦後の復興に努力してきた日本人に希望と勇気を与えました。そして第2回パラリンピックは、すべての障がい者に開かれた大会を目指し、車いす使用者による「パラリンピック」と、すべての身体障がい者を対象とした「国内大会」の2部制で開催。パラリンピックでは、日本を含め21か国378名の選手が9競技で競い合いました。



アジア初となる開催に日本中が沸いた東京1964オリンピックの開会式



代々木公園陸上競技場(織田フィールド／東京・渋谷区)で開かれた、パラリンピックの開会式

1964



1964
オリンピック
第18回大会(東京)

1964
パラリンピック
第2回大会(東京)

1972
第11回冬季大会(札幌)
日本初の冬季オリンピック

1985
IOCが、国際身体障害者
スポーツ大会を「パラ
リンピック」と名乗ること
に同意

1988
オリンピック
第24回大会(ソウル)

オリンピック・パラリンピックの
同一都市での開催が復活

1998
オリンピック
第18回冬季大会(長野)

1988
パラリンピック
第8回大会(ソウル)
初めて「パラリンピック」が
正式名称として使われた

1998
パラリンピック
第7回冬季大会(長野)
アジア初の冬季大会

2008
オリンピック第29回大会(北京)

オリンピック・パラリンピックの
大会組織委員会が統一され、運営で連携

2008
パラリンピック
第13回大会(北京)



東京1964大会の 開会式会場



国立競技場

東京1964大会の開会式会場。日本での「オリンピックの聖地」として知られる。



代々木公園陸上競技場

東京1964パラリンピックのメイン会場。日本人初の金メダリスト、織田幹雄の功績をたたえ「織田フィールド」という愛称で知られている。
©ピクスタ

column

東京1964パラリンピックは「2部制」で実施された?

パラリンピックの前身、ストーク・マンデビル大会は参加選手を、車いすを常用する脊髄損傷者に限っていました。しかし、1964年の東京での開催にあたり、中村裕ら主催者である日本側は、「さまざまな障がい者が参加する大会に」と願い、働きかけました。その結果、東京大会は第1部を従来型の「第13回国際ストーク・マンデビル大会」、第2部を「国内大会」という2部制で実施されました。こののち、トロント1976大会で初めて視覚障がい者と四肢の切断者が参加して以降、徐々に脳性まひ者や知的障がい者なども加わり、パラリンピックは現在、「さまざまな障がい者が参加する大会」へと発展しています。なお、1995年に国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)がIPCより脱退したこともあり、パラリンピックでは現在、聴覚障がいクラスは実施されていません。ろう者のための国際的なスポーツ大会としては、デフリンピックが開催されています。

column

悲願の東京1964大会

第二次世界大戦で敗戦した日本は、戦後すぐにはオリンピックへの出場が認められませんでした。しかし、関係者の努力により1951年にIOCに復帰、ヘルシンキ1952大会から出場できるようになりました。幻となった東京オリンピックの返上から26年。1964年に実現した東京オリンピックは、日本国民にとっての悲願だったのです。



東京1964大会のポスターとパラリンピックのポスター

1972年～ オリンピック・パラリンピックと日本

東京1964大会後、1972年には札幌冬季大会(日本初の冬季オリンピック)、1998年には長野冬季大会(2度目の冬季オリンピック・アジア初の冬季パラリンピック)が開催され、多くの選手が活躍しました。

札幌1972冬季オリンピック

オリンピック史上初の全競技カラー放送となった札幌1972冬季大会。テレビの最高視聴率は53.1%。選手の活躍に日本中が沸き返りました。

1972



メダルを独占した「日の丸飛行隊」



長野1998冬季オリンピック・パラリンピック

参加国・地域数・参加選手数ともに札幌1972冬季大会のほぼ2倍の規模となった長野1998冬季大会。一校一国運動*など、その後の大会にも引き継がれるレガシーを残しました。パラリンピックは、アジアで開催された初の冬季大会として注目を集めました。

※P.47:一校一国運動 参照



500mで日本初の金メダル、1000mで銅メダルを獲得した清水宏保(しみずひろやす)選手



アイススレッジホッケー(現パラアイスホッケー)の日本対ノルウェー戦

1998

Ⅱ. オリンピック・パラリンピックの歴史と意義

東京2020大会の開催が決定!

—2013年9月、ブエノスアイレスで開催されたIOC総会で決定—

オリンピック・パラリンピックはスポーツを通して人々に感動と勇気を与えてくれるだけでなく、街を変え、社会を変えていく力があります。多くの人がつないできたオリンピック・パラリンピックを、今度は私たち一人ひとりが継承し未来へつなげていく時です。

2020



東京での開催が決まった瞬間、喜びに沸く人々(2013年9月)

column

東京が世界で初めて!

2回目のパラリンピック(夏季大会)を開催

東京1964大会に続き、2020年、東京は世界で初めて2回目のパラリンピック(夏季大会)を開催する都市となります。次の時代の共生社会をどう描いていくのか、東京2020パラリンピックには世界中から大きな期待が寄せられています。



パラリンピック第2回大会(東京)

column

メダルの豆知識

現在ではオリンピック勝者に授与される最も栄えあるものは金メダルですが、近代オリンピック開始当初から金メダルが授与されていたわけではありません。金銀銅メダルの授与が始まったのはセントルイス1904大会からです。1位金、2位銀、3位銅の概念が一般的になるのは第二次世界大戦終結後になってのことです。それまでのオリンピック勝者に授与されるものの代名詞は、古代オリンピックと同じくオリーブの葉冠でした。



葉冠をかぶった室伏広治(むろふし こうじ)選手(アテネ2004大会)

オリンピック聖火リレーとは

ギリシャ・オリンピアの太陽光で採火された炎を、ギリシャ国内と開催国内でリレーによって開会式までつなげるものです。オリンピックのシンボルである聖火を掲げることにより、平和・団結・友愛といったオリンピックの理想を体現し、開催国全体にオリンピックを広め、きたるオリンピックへの関心と期待を呼び起こす役目をしています。

column

東京2020オリンピック聖火リレー

〈コンセプト〉東京2020オリンピック聖火リレーコンセプトは、「Hope Lights Our Way(英語)/希望の道を、つなごう。(日本語)」です。支えあい、認めあい、高めあう心でつなぐ聖火の光が、新しい時代の日の出となり、人々に希望の道を照らしだします。

〈ルート〉東京2020オリンピック聖火リレーは、2020年3月26日に福島県をスタートし、全国47都道府県を121日間(移動日を含む)で巡ります。

【ルートの特徴】

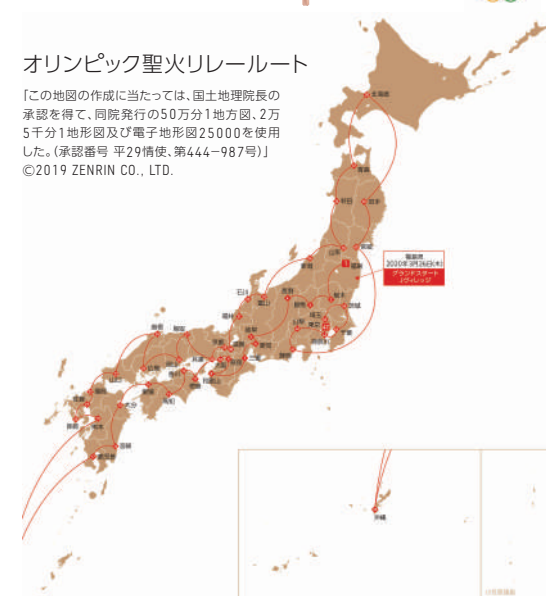
①日本全国の多くの人々が聖火リレーを見ることができるルート

②日本各地の魅力溢れる場所を訪問するルート

〈復興の火〉「復興の火」は復興オリンピックの趣旨を踏まえ、東京2020オリンピック聖火リレーの一環として実施されます。2020年3月20日から3月25日までの間、宮城県、岩手県、福島県の順番で各2日間「復興の火」を展示します。

オリンピック
聖火リレー
トーチ

オリンピック
聖火リレー
エンブレム



オリンピック聖火リレールート

「この地図の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院発行の50万分1地方図、2万5千分1地形図及び電子地形図25000を使用した。(承認番号 平29情使、第444-987号)」
©2019 ZENRIN CO., LTD.

パラリンピック聖火リレーとは

「パラリンピック聖火はみんなのものであり、パラリンピックを応援する全ての人の熱意が集まることで聖火を生み出す」というIPCの理念に基づいて開催されます。聖火リレーで用いられるパラリンピック聖火は、イギリスのストック・マンデビルと開催国内各地の複数箇所では採火される炎から生み出されます。

column

東京2020パラリンピック聖火リレー

〈コンセプト〉東京2020パラリンピック聖火リレーは、「Share Your Light(英語)/あなたは、きっと、誰かの光だ。(日本語)」をコンセプトに、目前に迫ったパラリンピックへの期待や祝祭感を最大限に高めます。

〈スケジュール〉採火イベント、聖火ビジットなどの「聖火フェスティバル」を、8月13日から17日まで43道府県で実施します。また、8月18日から21日まで、パラリンピック競技開催都県(静岡、千葉、埼玉、東京)で、採火式・聖火ビジット・聖火リレーを実施します。そして、47都道府県から出立した火を、8月21日に東京で集火し、8月22日~25日、開催都市内聖火リレーを実施します。

パラリンピック
聖火リレー
トーチ

パラリンピック
聖火リレー
エンブレム



Ⅱ. オリンピック・パラリンピックの歴史と意義

2. 精神と価値

オリンピック・パラリンピックにはそれぞれ目指す理想があり、長年、多くの人々がそれらの実現に向け努力してきました。それらはどのようなものなのか、一緒に考えてみましょう。

「オリンピック憲章」とは

IOCによって採択されたオリンピズムの根本原則、規則、付属細則を成文化したものです。オリンピック憲章はオリンピック・ムーブメント*の組織、活動、運用の基準であり、かつオリンピック競技大会の開催の条件を定めるものです。なお、IOC総会において「アマチュア選手に限る」とされていた参加規定が1974年に削除されたり、性別変更についても2015年に、それまで求められていた性別適合手術を条件から外すというガイドラインが変更されるなど、時代の流れに即してオリンピック憲章の中身は改定されています。

※P.47:オリンピック・ムーブメント 参照

「オリンピズム」とは

19世紀の末、クーベルタンによって提唱された近代オリンピズムには「オリンピズム」という理念があります。オリンピズムは、スポーツ競技だけではなく健全な若者を育て平和な社会づくりを目指す“願い”です。

- ・スポーツを通して若者がフェアプレーの精神のもとに心と身体を磨く
- ・文化や国の違いなどさまざまな違いを乗り越えてお互いを理解する
- ・友好を深めて、世界の平和に貢献する



オリンピズムのキーワード

column

「参加することに意義がある」に込められた想い

クーベルタンの言葉として有名な「オリンピックで重要なことは、勝つことではなく参加することである」は、実は彼の創作ではなく、ロンドン1908大会中に礼拝のためにセントポール大寺院に集まった選手を前に、主教が述べた言葉でした。

クーベルタンはこの言葉に感動し「人生にとって大切なことは成功することではなく努力すること」と語り、オリンピックの理想を表現する名句として知られるようになりました。

パラリンピックの持つ価値

障がい者の治療・リハビリからスタートしたパラリンピック。現在では、スポーツを通して障がい者に対する社会意識の向上を促す重要な役割を担っています。そこは「誰もが平等に能力を発揮し活躍できる場」。つまりパラリンピックには「人々が平等に活躍できる社会をどうつくるか」という課題に対するたくさんのヒントがあるといえます。今回の活動を通じて、どうしたら社会の意識を変えていけるのかも考えてみましょう。



パラリンピック 陸上競技 女子



パラリンピック 水泳 男子

パラリンピック・ムーブメント*1の究極の目標

パラスポーツを通じて障がいのある人々も含めたインクルーシブな社会*2を創出する

※1 P.47:パラリンピック・ムーブメント 参照

※2 P.98:インクルーシブな社会(インクルージョン) 参照

パラリンピックの価値

IPCは、パラリンピアンたちに秘められた力こそが、パラリンピックの象徴であるとし、下記の価値を重視しています。

勇気

マイナスの感情に
向き合い、
乗り越えようと思う
精神力

Courage

強い意志

困難があっても、
諦めず限界を
突破しようとする力

Determination

インスピレーション

人の心を揺さぶり、
駆りたてる力

Inspiration

公平*

多様性を認め、
創意工夫をすれば、
誰もが同じ
スタートラインに立てる
ことを気づかせる力

Equality

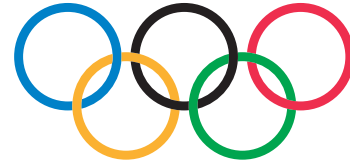
※IPC発表の英語表記は「Equality」であり、その一般的な和訳は「平等」ですが、「平等」な状況を生むには、多様な価値観や個性に即した「公平」な機会の担保が不可欠です。そして、そのことを気づかせてくれるのがパラリンピックやパラアスリートの力である、という点を強調するため、IPC承認の下、あえて「公平」としています。

Ⅱ. オリンピック・パラリンピックの歴史と意義

3. オリンピックシンボルとパラリンピックシンボル

オリンピックシンボルは団結のしるし

1914年、クーベルタンによって考案されたのがオリンピックシンボルです。5つの輪は五大洲を表しており、世界中の人々がオリンピックを通して友情を育み、協力しあって結ばれることを表現しています。



column

オリンピックシンボルの色

オリンピックシンボルの色は、青、黄、黒、緑、赤の5色に、旗の地の白を加えた6色。これらの色で世界の国々の国旗がほとんど描けることから、「世界は一つ」との意味が込められています。



3つの曲線からなるパラリンピックシンボル

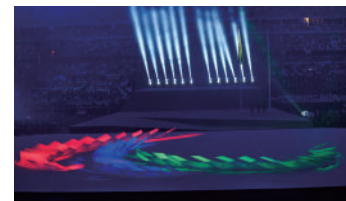
パラリンピックシンボルは「スリーアギトス」と呼ばれ、赤、青、緑の3色の曲線で描かれています。「アギト」はラテン語で「私は動く」を意味し、困難なことがあっても諦めずに、限界に挑戦し続けるパラリンピアンを表現しています。



column

パラリンピックシンボルの色

パラリンピックシンボルに使われる赤、青、緑は、世界の国旗で最も多く使用されている色を採用。中心をとりまく3つのアギトは動きを象徴し、競技のために世界中から選手を呼び集めるというパラリンピック・ムーブメントの役割を象徴しています。現在のデザインは3代目で、アテネ2004大会の閉会式から使われています。



リオ2016大会の開会式でフロアに浮かび上がったパラリンピックシンボル

column

オリンピック・パラリンピックはなぜ4年に一度なの？

争いが絶えなかった古代ギリシャで、休戦を促すために4年に一度競技大会を開いたのが古代オリンピックの始まりです。当時の4年を一周期とする古代ギリシャの暦にならって、現在も4年に一度開催されます。



古代オリンピックで行われていた競技

column

オリンピアドとは？

オリンピックが開催される年からの4年を「オリンピアド」といいます。競技大会が開催されている期間だけでなく、前の大会から受け継ぎ次の大会に向けて、オリンピック・ムーブメントを中心的に推進する期間、と位置づけられています。東京2020大会のオリンピアドは2020年1月1日から2023年12月31日までとなります。

column

オリンピックは国ではなく「都市で開催される」のはなぜ？

サッカーやラグビーなどのワールドカップや世界選手権と違い、オリンピックは「都市」での開催が特徴です。それは「スポーツは国家権力や人種、宗教の枠を超えた自由なものだから、国の情勢に影響されずに開催していこう」という考えからきています。しかし、現状はなかなか理想通りにはなっていません。各国の政治情勢などによってボイコットなどが起こっていることも事実です。クーベルタンの目指した「世界の平和に貢献する」ことを目指し、私たちはこれからも努力していかなければなりません。

Ⅱ. オリンピック・パラリンピックの歴史と意義

4. オリンピック・ムーブメントとパラリンピック・ムーブメント

オリンピックやパラリンピックのあるべき姿を世界中の人々によく知ってもらい、その考え方を大きく広げていく活動のことを「オリンピック・ムーブメント」「パラリンピック・ムーブメント」といいます。4年ごとに開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会の開催はもちろん、「文化」「教育」に関する活動もその一環です。

オリンピック・ムーブメント パラリンピック・ムーブメント

「スポーツを通して若者を教育し、国境を越えて平和でより良い世界の構築に貢献する」というオリンピズムの理念を実現していくために、「フェアプレーの推進」「差別の撤廃」「アンチ・ドーピング※活動」「スポーツと文化・教育の融合」などさまざまな活動が世界中で行われています。



青少年のためのユースオリンピック。クーベルタンの理念・考えのひとつ、「青少年の教育」を広げるオリンピック・ムーブメントに則っている。

パラリンピックスポーツを通して発信される価値やその意義を通して人々に気づきを与え、より良い社会をつくるための社会変革を起こそうとするあらゆる活動のこと。パラリンピアンや大会の関係者だけでなく、社会変革を起こそうとする人・団体すべてが担います。



アジアユースパラ競技大会は、若い選手にとっては貴重な国際経験を積む機会であり、パラリンピックへの登竜門として現在世界で活躍している多くの選手たちが参加している。
©エックスワン

※世界アンチ・ドーピング規程 (World Anti-Doping Code) は、グリーンなスポーツに参加するアスリートの権利を護り、世界中のアスリート、スポーツに参加するすべての人が公平、公正、そして平等にスポーツに参加するための全世界・全スポーツ共通の約束事です。

column

「一校一国運動」

長野1998冬季大会では、市内の各小中学校と特別支援学校が担当するひとつの国を決め、さまざまな交流を深めました。この活動はその後開催都市で続けられているオリンピック・ムーブメントの代表的な取り組みです。



5. オリンピックと平和

これまで多くの人が、クーベルタンの唱えた「世界平和に貢献するオリンピック」に向けて努力してきました。しかし、その歩みはまだ途中にあります。この機会に「平和の祭典」としてのオリンピックについて考えてみましょう。



長野1998冬季大会の開会式では鳩の形をした風船が放たれ平和を願った。

古代オリンピックの休戦協定

古代オリンピックでは開催期間の前後3か月間、武器を持つことを禁止し選手や旅人の安全を確保。クーベルタンはこの考えを引き継ぎ、「平和の祭典」としてのオリンピック復興を唱えました。しかし、クーベルタンの時代に休戦協定は実現できず、その後も政治の影響を受けたオリンピックは数多く存在しました。

政治の影響を受けたオリンピック

ベルリン1916大会 第一次世界大戦のため中止
東京1940大会 日中戦争のため返上
ヘルシンキ1940大会 ソ連のフィンランド侵攻により中止
ロンドン1944大会 第二次世界大戦のため中止
メキシコシティ1968大会 市民による反政府集会が軍などに鎮圧され死者を出した（トラテロルコ事件）
ミュンヘン1972大会 イスラエル選手団が襲われるテロにより大会が一時中断
モントリオール1976大会 アフリカ諸国20か国以上がボイコット
モスクワ1980大会 ソ連のアフガニスタン侵攻に反発して西側諸国等50か国以上がボイコット
ロサンゼルス1984大会 前回大会の報復のため東側諸国16の国と地域がボイコット

国連総会で「オリンピック休戦決議」採択

「オリンピック休戦」は、スポーツの持つ力で紛争のない世界の実現を目指す活動で、オリンピック・パラリンピック開催期間中の休戦を呼びかけます。1993年、国連総会で初めて「オリンピック休戦決議」が採択され、その後、毎夏冬大会の前年の国連総会でこのオリンピック休戦決議が採択される習わしになっています。「平和の祭典」としてのオリンピック・パラリンピックの価値を一人ひとりが考えていくことが大切だといえます。



オリンピック休戦のシンボルマーク。背景の聖火はオリンピックカラーの5色にし、休戦を願う全ての国々を象徴している。



史上初の難民選手団（リオ2016大会）。出身国ではなくオリンピックの旗を持って入場行進した選手団に大きな歓声と拍手が起こった。

Ⅱ. オリンピック・パラリンピックの歴史と意義

column

次の開催都市につなぐ「フラッグハンドオーバーセレモニー」

フラッグハンドオーバーセレモニーとは、オリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグを次の開催都市に引き継ぐセレモニーです。セレモニーで引き継がれたフラッグは次の開催都市が4年間保管し、オリンピック・パラリンピックの精神が継承されていくのです。

リオ2016大会のフラッグハンドオーバーセレモニー



オリンピックフラッグは、リオ市のパエス市長からIOCのバハ会長を経て、小池都知事へと引き継がれた。



パラリンピックフラッグは、リオ市のパエス市長からIPCのクレイバン会長(当時)を経て、小池都知事へと引き継がれた。

東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー

オリンピックフラッグとパラリンピックフラッグが日本全国を回る「東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー」。2016年10月から2019年3月にかけて、都内全区市町村および全都道府県を巡回しました。



column

3つの「ありがとう」

リオ2016大会では、日本の子どもたち1万人以上による人文字の動画を紹介。日本語、英語、フランス語、ポルトガル語で、3つの「ありがとう」を伝えました。

1. 東日本大震災で世界の人々からいただいた支援に対しての"ありがとう"
2. リオデジャネイロへ素晴らしい大会を開催してくれたことへの"ありがとう"
3. 東京を開催都市として選んでくれたことへの"ありがとう"



6. 変わり続けるオリンピックとパラリンピック

2020年は、クーベルタンが近代オリンピックを復興してから124年。人々はクーベルタンの唱えたオリンピズムの実現に向けて常にチャレンジを続けてきました。2020年の東京大会で私たちはどのようなチャレンジをしていくのでしょうか。

女性参加の増加と性別を超えた公平・平等な参加に向けて

2017年IOC臨時理事会で、2020年の新種目が決定。野球・ソフトボール・サーフィンなどが追加されたほか、卓球や柔道での「男女混合種目」が増加しています。これは、2014年策定「アジェンダ2020」において、女性の参加率の50%の実現を目指すこと、男女混合団体種目の採用を奨励することが示されるなど、男女平等を推進することが提言されたことをもとに、「男女の参加比率を同等にする」という目標に向けて実現したものです。

column

男女混合種目

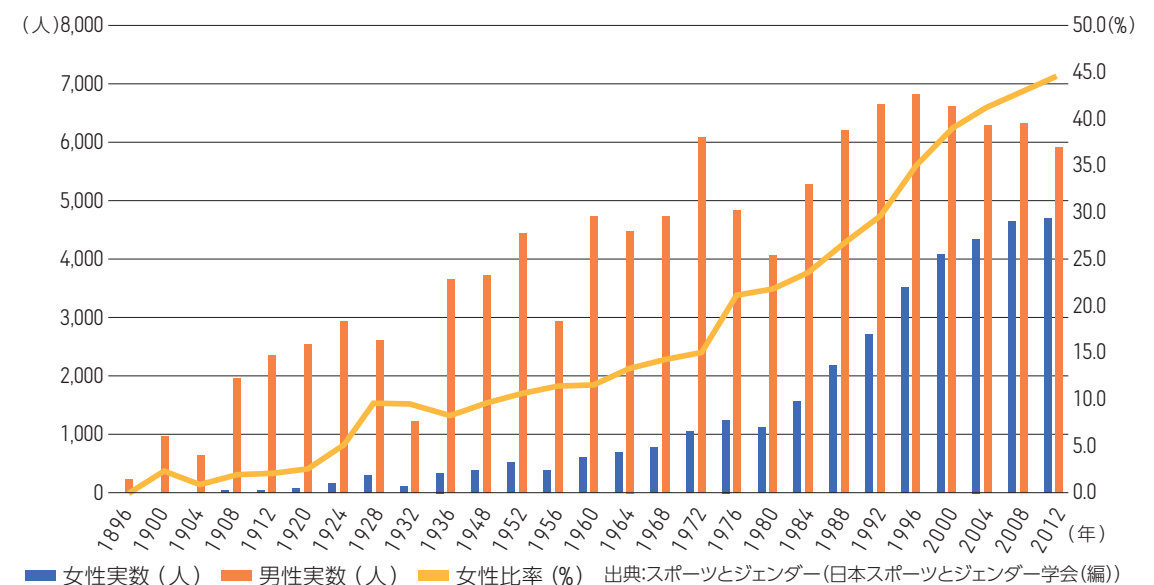
東京2020オリンピックでは、卓球の混合ダブルス、柔道の混合団体など、男女混合9種目が増えるなど、33競技339種目が実施されることが確定しました。これにより、東京2020大会での女性参加比率は48.8%に向上します。



バドミントン混合ダブルス
©Getty Images

オリンピック出場選手に占める女子選手の割合

(近代オリンピック大会(夏季)における参加選手数)



■ 女性実数(人) ■ 男性実数(人) ■ 女性比率(%) 出典:スポーツとジェンダー(日本スポーツとジェンダー学会(編))

女性が初めて参加したパリ1900オリンピックの女子選手は全体のわずか2.2%でした。それから120年の歳月を経て、ようやく男女同数に近づくことになります。オリンピックでは今後も「性別を超えて公平かつ平等なオリンピック」を目指した活動が進められます。

Ⅱ. オリンピック・パラリンピックの歴史と意義

column

競技や社会で輝き続ける女性アスリートたち

日本人女性初のメダリスト

人見絹枝（ひとみ きぬえ）

- ・1907年生まれ。大阪毎日新聞社に就職。
- ・新聞記者をしながらアムステルダム1928オリンピックに出場。
- ・800mで銀メダルを獲得。日本人女性初のオリンピックメダリスト。
- ・偏見と戦いながら、日本女性の存在を世界に示すとともに、スポーツジャーナリストとしても活躍した。



メダリストから国会議員へ

橋本聖子（はしもと せいこ）

- ・1964年東京オリンピックの年に生まれたため聖火にちなんで聖子と名付けられた。
- ・アルペールビル1992冬季オリンピックにおいて、スピードスケート女子1500mで銅メダルを獲得。
- ・1995年参議院議員選挙にて初当選。東京2020大会招致のキーパーソンの一人であり、現在は日本オリンピック委員会副会長として活躍中。



冬季パラリンピック 日本人初の金メダリスト

大日方邦子（おびなた くにこ）

- ・冬季パラリンピック5大会連続出場し、アルペンスキー競技で合計10個のメダルを獲得。特に、長野1998冬季パラリンピックの滑降で獲得した金メダルは、冬季大会史上、日本人初の金メダルとなった。
- ・パラリンピック出場選手有志による選手会、「日本パラリンピアンズ協会」副会長を務めるほか、若手選手育成にも尽力。



選手としてのみならず、多方面で活躍中

田口亜希（たぐち あき）

- ・射撃日本代表として、3大会連続でパラリンピックに出場（アテネ、北京、ロンドン）。
- ・2010年アジアパラ競技大会で銅メダルを獲得。
- ・東京2020組織委員会アスリート委員、東京2020聖火リレー公式アンバサダーを務める。
- ・2018年5月、世界パラ射撃連盟の選手代表に就任。



パラリンピックを通してインクルーシブな社会をつくるために

パラリンピックで躍動する選手たちの姿は、私たちに感動や希望だけでなく、障がい者への心の意識や考え方について気づきを与えます。「インクルーシブな社会を創出する」。この実現のため、パラリンピックができることは何でしょうか。パラリンピックはこれからもさまざまな進化を遂げていきます。



重度脳性まひなど重い障がいのある人のために考案されたポッチャ



義足をつけ競技する陸上競技トラック種目切断障がいクラスの選手

公平に競い合えるためのさまざまな工夫

パラリンピックは、さまざまな障がいを持つ選手が参加できるよう、持ち点制を導入するなどのルールや、アーチェリーでは、腕に障がいがある方でも、口や肩で弓を引けるといった用具の工夫があります。また、クラス分け制度を導入することで、公平に競い合えるようにしています。パラリンピックは、現在もグットマンの理念を受け継ぎ変化を続けているのです。



腕に障がいがあるため、用具を改良しています。

column

リオ2016パラリンピックの100m走決勝は男女合計30回!

陸上競技では、障がいの種類や程度、運動機能に応じてクラス分けし、レースが行われます（柔道が体重別で競い合うのと同じ考え方です）。例えば、リオ2016パラリンピックの100m走では、男子16クラス、女子14クラス、合計30クラスあるので、決勝戦も合計30回実施されました。



車いすクラスでは高速走行用車いすを使う。

Ⅱ. オリンピック・パラリンピックの歴史と意義

女性選手や障がいの重い選手の参加枠増大へ

IPCは、近年男女の参加比率をできるだけ同等に近づけることを目指しており、新種目として、陸上競技や水泳の「男女混合リレー」の採用が予定^{*}されているなど、東京2020パラリンピックでは女子の参加枠が史上最多となります。また、障がいの重いクラスの選手の参加枠も増やされ、より幅広い選手の参加や活躍が期待されています。

※2019年7月現在、水泳「4x50m 20ポイント リレー」は確定

column

車いすラグビーは男女混合のスポーツ!

車いすのフレームがゆがむほど激しいぶつかり合いをする車いすラグビー。実は男女の混合スポーツなのです。障がいの程度によって各選手に持ち点が与えられ、コート上の4人の選手の合計を8点以内にするルールがありますが、女子選手が1人入るごとに、さらに0.5点ずつの追加点が認められます。

いかがでしょうか？ オリンピック・パラリンピックの歴史と意義は学べましたか？
かつて戦争の影響で幻と消えた東京オリンピックがあったこと、オリンピック・パラリンピックの「ムーブメント」とは何かなど、知っているようで知らないことも多かったのではないのでしょうか。

東京2020大会を支える私たちも心に留めておきたいのは、オリンピック・パラリンピックにはそれぞれ明確な目指す姿があり、長年、多くの人がある実現に向けて努力してきたということです。

その結果として、例えば女子選手の参加比率が向上したり、パラリンピックではクラス分け制度を導入してより公平に競えるようにしたり、より障がいの重い選手にも出場機会を与えられたりするなど、さまざまなポジティブな変化がもたらされてきました。

近代オリンピックの父・クーベルタンの唱えた「オリンピズム」の実現のために、そしてパラリンピックを通じて共生社会をつくり出すために、一人ひとりにどんなチャレンジができるのか――。

さあ、今度はField Cast・City Castの私たちが新しい歴史をつくる番です!

